

セリ会要綱

12月18日の例会は、恒例の“何でもセリ会”です。賑やかに今年一年を締めて戴きますよう、大勢の方の出品と活発なセリをお願いします。

** 当日は19時からセリを開始できるよう、時間までの参集と出品物の陳列完了をお願いします。

** 出品物は只今より募集を始め、12月11日（火）を締め切りとします。事例を参考に必要事項を担当者まで連絡下さい。

一応一人4点までを出品数とします。その他の要領は概ね従来通りですが、初めての方など詳細をご希望の方は、担当者までお尋ね下さい。

出品事例：優先順位番号／出品者名／出品物／産地／コメント／数量／底値

1／多摩虫男／オオムラサキ／京都府加茂郡／飼育・展翅品・スギタニ型・大型で美麗／
1♂／¥1000

担当者

仲西 03-3397-5412、 小柴 042-327-4321、 早坂 045-823-4430

どこまで続くアカホシゴマダラ

数年前、神奈川県藤沢市をはじめとして発生したアカホシゴマダラ（中国付近の大陸産）は、分布の拡大もさることながら種自体の強さもあってか勢いを増すばかりでとどまるところを知らない。

今では埼玉県南部まで到達している。どういうわけか北東方面への進出はすざましいが逆の南西方面への進出はあまり勢いが無い、これは風向きなども影響しているのかもしれないが理由はよくわかっていない。おそらく山梨県南部へもどうに進出しているとおもわれる。東京都区部や近郊の武蔵野市あたりでも幼虫が見つかる。武蔵野市ではまだ数は少なくゴマダラ10～20幼に対してアカボシ1幼位の割合で発見される。日あたりの良い小さいエノキによく見出され、それらは不思議と交通量の多い広い道路に面しているところにあるエノキに多い、おそらく♀の飛行ルート好みと何か因縁めいたものがあるに違いない。

日蔭では圧倒的にゴマダラが多い。従来、ゴマダラはオオムラサキと同じく大木を好むと思っていたが、アカボシ調査の折に見つかる小木でのゴマダラの数にびっくりすると同時に *Hestina* 属は本質的には小木を好み、しだいに大木にも移行したと見るのが妥当と思われるようになってきた。いずれにしろ来年は東京も現在の神奈川県なみにアカボシの天下になるに違いない。その功罪は別にしても公害に強い？あの雄大な飛行を見る楽しみが増

えたと思うのは不謹慎であろうか？

* 住所、メルアド変更

山下又幸 〒811-5221 長崎県壱岐市石田町池田東触 1018-1 ハイツヤマシタ 105

窪田敬士 takkubota@jcom.home.ne.jp

児山元昭 cypris11@yahoo.co.jp

* 例会日の変更について

12/18 (所定) 以降の例会は、来 1/22 (第4火) 2/19 (所定) 3/15 (土) 13:30~昼間の
総会兼例会 4/15 (所定) 5/20 (所定) となっております。各自お間違いなきようご承
知おきください。なお、ホームページの会員専用からも確認できます。よろしくお願
いいたします。

都会に *
蝶を呼ぼう



南さんが品川区内で撮影したジャコウアゲハ

都会での自然保護活動の
一つとして、土手や校庭な
どに蝶の好きな植物を植
えて呼び寄せる「蝶の道プ
ロジェクト」が、東京・品
川区で行われています。先
月下旬に開かれた蝶の観察
会に参加しました。

小雨の中、約20人の区民
といっしょに勝島運河沿
いの遊歩道「しながわ花
海道」を歩きました。

土手には、ジャコウア
ゲハの成虫が蜜を吸う
キバナコスモスが咲
き、幼虫が食べるウマ
ノスズカサが生えてい
ます。

ウマノスズカサの葉をめ
くると、直径1ミリの
赤い卵と体長1センチほどの黒
い幼虫を発見。遊歩道の植
え込みのツツジに目を凝ら
すと、越冬する黄色いサナ
ギが枝についていました。

このプロジェクトは、環
境問題に取り組む地元有志
のグループが2年前に始
め、今年度から区も支援し
ています。メンバーで観察
会のガイドを務める南孝彦

さんは、「蝶は種類によ
って好きな植物が決まってい
て、計画的に植えて呼び寄
せることができます。きれ
いな姿を春から秋まで観察で
きるのも、子どもたちが生
き物との共生に興味を持つ
のにぴったりです」と説明
しています。

私たちは、区立鯉濱小学
校も訪ねました。南さんに
よると、校庭のクスノ
キにアオスジアゲハ
(♀)が、レモンの木にナミ
アゲハなどが飛来しま
した。蝶を呼び寄せる
花壇などの食草園は
07区区内に25か所設けら
れ、10種類以上の蝶が確認
されています。

「南方系のツマゲロヒヨ
ウモンが確認されたことか
ら、気候の温暖化などもわ
かる」と南さん。プロジェ
クトは、地球規模で起こっ
ている環境破壊の問題を、
子どもたちが真剣に考える
きっかけになると思いまし
た。(小5・横森萌々太、
小6・小窪友里乃、高2・
井田香菜子記者)

鳥や樹木を観察できます

5本の樹・野鳥ケータイ図鑑

積水ハウス
がサイ

積水ハウスは、携帯電話を使って手軽に調べることができる自然環境観察システム「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」のサイトをオープンした。

同社は「3本は鳥のため、2本は蝶のため」に、地域に合わせた日本在来樹種を「5本の樹」をスローに育ててきた「里山の始まり」、平成18年度には

知恵に学び、地域の気候風土に適した「5本の樹」を植える庭づくり、まちづくりをすすめている。この計画は平成13年から

全国で約75万本の樹木を庭木として植栽している。庭木として知らなくとも、色や大きさなどの外見の特徴から検索が簡単にできる。このサイトのように樹木だけでなく鳥や蝶との関係など生態系

の。さらにその樹木に集まる鳥や蝶についても写真や解説を閲覧でき、鳥の鳴き声を再生することもできる。また、樹木、鳥、蝶の名前を知らなくとも、色や大きさなどの外見の特徴から検索が簡単にできる。このサイトのように樹木だけでなく鳥や蝶との関係など生態系

5本の樹 野鳥ケータイ図鑑

©SEKISUI HOUSE, LTD.

- 野鳥をしらべる
- 蝶をしらべる
- 庭木を検索する
- 葉の形からしらべる
- 花・実からしらべる

はじめに「5本の樹」計画とは?

ヘルプ
お問い合わせ
監修・協力

積水ハウス「5本の樹・野鳥ケータイ図鑑」トップページ

本「5本の樹」計画のつながりを示す自然系図鑑」
http://5bnooki.jp



「虫食む人々」のタイト
ルを見て、思わずギョッと
する人が多いだろうが、驚
くことなかれ。例えば「ヘ
ボ」と呼ばれるクロスズメ
バチの幼虫は、父親の出身
地である岐阜県東濃地方で
は、秋の風物詩なのだとい
う。地元では身近なごちそ

うで、幼いころは、ヘボ探
り名人だった祖父が採って
きたハチの子を食べてい
た。
そんな原体験が現在の研
究に結びついたのは大学時
代だ。

著者来店

■「虫食む人々の暮らし」

野中 健一 さん

07.10.14 読者

虫食べて感じる自然

きとした笑顔に、「自然と
接する喜びは、こんなとこ
ろにあるんだなあ」と強く
感じるものがあった。

卒業論文で、長野県では
どんな虫をどの地域でどの
ように食べているかを調査
し、まとめた。大学院では、
自然と人とのかわりを学

高い値で売られており、調
理法も実に様々。カメムシ
だっておいを取る工夫を
凝らして食べる。何より、
人々は虫を通じて自然との
接し方を学び、季節を感じ、
食べることを楽しんでい
る。「日本でも、50種類以上
の虫が食べられてたんです
（970円）

金巻有美

代のこと。漠然と環境に関
する仕事をしたと思うて
いた2年生の夏、愛知県内
の山林で下草を刈るアルバ
イトをした。そのとき、一
緒に働いていた人がアシナ
ガバチの巣を見つけ、幼虫
を口へ運んだ。その生き生

ぶ「生態人類学」に出会い、
研究地域はアジアや南アフ
リカにまで広がった。
その結果分かったのは、
虫を食べるのは、貧しいか
らでも、ほかに食べ物がな
いからでもないというこ
と。市場では、虫は肉より

よ。人なつこい笑顔で、驚
きの事実を教えてくれた。
研究が認められ、今では
「民族昆虫学」の第一人者。
教壇に立つ大学では、学生
に虫を食べてもらうことも
ある。「虫をおいしいと思
う気持ちや感覚から、異文
化への理解や
想像力が広が
ると思うん
です」